

いつでも・どこでも・便利に・気軽に

電子自治体を目指して～ URL = <http://www.city.fujisawa.kanagawa.jp>

ISと タイム地震情報 というときのために～

ける市内の被害情報、被災者安否情報、生
イア情報等を的確に把握するために、98年
を活用した防災情報ネットワークシステム
きました。本年10月にはさらに日ごろから
を持ってもらえるようシステムの見直しを
新たに防災防災本部や防災対策課の協力を
地情報システム(おひさ)を導入しま

Automation Systems)の機、地図の上にも電子データも
更新、編集、加工、印刷等ができるもので、コー
上画が可能なものです。



には、防災科学技術研究所(文部科学省の
全国規模で整備している高度地震情報処理
用地理した地震情報(位置や規模等)を
けてもらい、地震の規模が本所に到達する
に依り、被害を最小限にとどめることが
タイム地震情報活用システム)の研究、研

電線都市ふじさわ ～新しく、分かりやすく～

藤沢市議のホームページ「電線都市(でんえんとし)ふじ
さわ」が生まれ変わりました。藤沢原産のブドウ「ゆめ
じみのり」をイメージしたトップページの上に分野別の4
つの見出しを添えて、情報を整理しました。初めての方にも
利用しやすいように使い方のページを用意したり、市内各地
区の人気手帳のページや各団体に所属しているイベント類し物
情報を)の所に集めるなどの見直しをしました。
またバリエーションへの取り組みとして、文字だけで構成さ
れたページ(テキスト版)を作成しました。音声読み上げソ
フトの利用が可能となるとともに、小さな文字が読みにくい
点にも分かりやすいように、文字と背景との明暗を強調して、
文字の大きさが簡単に変更できるようになりました。



市では地域全体がともに発展し、取り組むため、また
市民一人ひとりの参加により、元気あふれる市民コミュ
ニティーのまちとなるよう、2001年3月に「藤沢
市地域IT基本計画」を策定し、市民の視点に基づいた
地域情報化を積極的に進め
この計画は2001年度から3年度で、急速に進む社会
のIT化への対応も視野に入れ、より身近でやさしい電
子自治体を目指して、ITを活用したさまざまな施策を
展開していきます。
【問い合わせ】情報推進課(内線7-231、8) (24)

学校イントラネット 交や公民館が充実。 速く、安心、便利に～

イントラネット構築事業は、総合防災セン
市内15の公民館・公民館分館の地域施設と
を拠点として市内小・中・養護学校53校を
る他、高等・大専養の通信回線(100Mbps)
への広帯域を確保するものです。
-によって学校教育分野では、学校での
より交流や共同学習などができるようにな
分野では公民館予約システムが全館で実
用化の予定、公民館などの博物館資料が、準
1事業で利用できるようになります。また防
1拠点である公民館と避難場所である学校に
2を架けたり、総合防災センターと防災機
1ができるようになります。



生涯学習大学 ～いつでもどこでも何度でも～

本年度開設した藤沢市生涯学習大学おかせみ学院では、学
習機会が多様化と在宅学習の推進を目的に、インターネット
を活用し、「いつでも、どこでも、何度でも」学習の機会を
提供しています。本年度は慶応大学南横浜キャンパスとイン
ターネット基盤上での新しい高等教育のあり方を研究してい
るワイドユニバーシティ(WIDE University School of Inter-
net)の協力を得て、慶應情報学部長兼教授の「アジエ
ネット総合研究所」などの協力をインターネットで配信してい
ます。

WIDE
WIDE University School of Internet
WIDE University School of Internet
WIDE University School of Internet
WIDE University School of Internet

市民ITふれあいコーナー Let's ふじさわ ～気軽に相談～

「IT講習会やパソコン講座などを受講しても、継続して
技能を習得していく難くない」「パソコンの初心者でも方法を
相談したい」などITやパソコンに関する要望がありました。
こうした声にこたえ、市民の皆さんのITやパソコン利
用を一歩進めてもらえるよう、気軽に立ち寄り、利用できる
場として「市民ITふれあいコーナー Let's ふじさわ」を設
置しました。

本部は藤沢生涯センター内に、本部は社会福祉協議会との
共同運営によってふじさわボランティアセンター内にインテ
ネット利用ができるパソコンを置き、電話などでの相談にも
対応できる専門の相談員を配置しています。今後はボランテ
アの相談員も活用できる場として、市民が市民をサポートする
運営や仕組みづくりなどを検討していきたいと考えています。

